

文化活動部会

山川政志

文化的な活動は子どもの成長と発達の基礎

この間、コロナ禍の中で、演劇やコンサート、集会・イベントなど、文化的な活動が、自粛の名のもと縮小・延期・中止に追い込まれています。

一学校では、一斉休校と三密（密閉・密集・密接）の回避要請で卒業式、入学式や始業式、学芸会や音楽会・展覧会、運動会や体育祭、また、修学旅行や社会科見学、理科見学、遠足など、様々な行事や活動が変更・縮小・中止に追い込まれました。そして、給食を含め全員マスクで前向き、大声で話さない・歌わない、人との接触は避けるという状況です。これでは、子どもたちの文化的〓こころの成長は望めません。

こうした中でも、子どもたちの活動を工夫した取り組みもなされています。

1月に開かれた東京教研（〓コロナ禍でこそつながり・語り・支えあう社会を

！）「文化活動分科会」で、学校や学級での取り組みが報告されました。

4年生の担任からの報告です。

・学校が再開後不安そうだった子どもたちのことを考え、健康観察の際、積極的にユーモアをもって子どもたちとひと言をかける、そのことで硬かった表情が少しずつ笑顔になり、和やかになってきたこと

・そうした取り組みを通して、子どもたち自身が「クリスマスがしたかった」「4年生のお別れ会をしたい」と主張し、お別れ会の企画書を書くような積極的な面が出るようになったこと

「子どもたちと一日一日を楽しんで過ごしたい」とも話されました。

また、2年生の担任は、学校が再開し全員登校から始めた学級の活動について次のように報告しました。

・体育では接触を避けることができる活

動としてフラフープを取り入れ、「鬼滅の刃」の主題歌に合わせた集団演技や個人技を取り入れる

・学校祭りでは、内遊び中心だった休み時間の時に親しんだ、けん玉やお手玉・オセロ・王様じゃんけんなどを紹介

・学習でも、遊びながら学ぶ漢字かるた、職員の方々に協力してもらいながら進める九九マスターの工夫

「見通せる範囲で活動に挑戦し攻めることの大切さ、すべての教育活動が文化活動ですね」と話しました。

1月の部会では、学校全般の活動を文化活動と考え、今後は文化的学芸的行事ばかりでなく、入学式や卒業式などの儀式、体育的行事や特別活動など学校教育全体について研究を深めようと話し合いました。また、中学校の実践、地域の伝統や文化、子ども会活動などにも視野を広げようと考えています。

次回の部会は、4月3日（金）14時からです。ぜひご参加ください。

（共同研究者）